

平成22年2月1日

福知山FM放送 第12回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成22年1月26日(火) 午後6時～
2. 場所 京都府福知山旭が丘111番地
北関西IITメディアセンター福知山2F セミナールーム
3. 出席状況 総委員数 9名
出席委員数 8名
出席委員の氏名 大槻敦巳 委員
足立 保 委員
梶村誠悟 委員
勝方 努 委員
駿河禎克 委員
藤田佳宏 委員
藤原公子 委員
松田 規 委員

放送事業者側出席者名

代表取締役社長 松井喜久夫
局長補佐 水寫孝彦

4. 議 題 1) 福知山FM放送局概況報告
2) 放送番組全般に対するご意見
3) 次回番組審議会の開催日時について
4) その他
5. 議事の概況
1) 代表取締役社長 松井喜久夫より、前回審議会以降の概況報告が行われた。
2) 各委員より放送番組全般に対する意見が出され、それぞれ代表取締役社長松井喜久夫が答申した。
3) 次回番組審議会の開催日時について協議がなされた。
4) その他、代表取締役社長松井喜久夫より今後の放送展開についての説明が行われた。

6. 審議の内容

1) 福知山FM放送局概況報告

代表取締役社長松井喜久夫より前回審議会以降の概況報告が行われた。

- ・京都府との協定について

平成21年12月17日（木）福知山総合庁舎にて京都府との緊急時における放送実施に関する協定締結。新聞各紙でも報道された。

- ・年末年始特別番組について

平成21年12月31日～平成22年1月3日まで年末年始特別番組編成。昼の3時間は生中継特別番組として市内各地からの中継を交えて放送。その他ふくちやま昔話や市長挨拶などを放送。

- ・ホームページスタッフブログについて

平成22年1月1日からスタッフブログを開始。ほぼ毎日更新しており、アクセス数も増加しつつある。

- ・商工会議所主催 新年賀詞交歓会について

サンプラザ万助において行われた商工会議所主催の新年賀詞交歓会を生中継。会頭の挨拶を含め、福知山の事業所や団体代表者の活気ある姿を伝えた。

- ・無線従事者について

放送局には無線従事者（第1級又は第2級陸上無線技術士）の選任が必要となっているが、この度の資格試験において社内で1名が第1級を取得見込、他1名も2級を科目合格（4分の3）見込。後々は4名体制で点検管理していきたい。

- ・今後の技術進化について

総務省では電波のホワイトスペースの活用や、通信・放送に関する法律の整備など、新しい流れが出来てきている。今後はこういった部分を把握しつつ準備を進めていく必要がある。技術進化に合わせて、様々な形での地域情報発信、またこれまでと違った発信の仕方も提案していきたい。

2) 放送番組全般に対するご意見

大槻委員長の議事進行のもと、各委員が前回審議会以降の放送番組全般に対する意見を述べた。

出された意見及びその答申は以下の通り

(委員) ふるさと季行では自治会長のインタビューを放送されているが、この企画に関して以前はなかなか自治会長もいそがしくて思うようにいかないということだ

ったが、聞いているとかなりの人数が出演されており精力的に頑張っておられる。パーソナリティが話に割り込むことなくじっくり聞いており、うまく編集しているなあと聞いて聞いている。これまでいくつぐらい自治会をインタビューされたのか。

(事務局) これまでで100ぐらいの自治会には声を頂いた。自治会長によっても番組への考え方にはまだまだ個人差がかなりあり、出演することに前向きでない方もいらっしゃる。今後も特定の地域に片寄らないように平等に声をかけていく。

(委員) 8月1日の台風の時に緊急放送をしておられたようだが、その時は私はとある会場に居たのだがラジオは持っておらず情報収集ができなかった。市民一人一人がそういった緊急時に備えてラジオを持っていくことを意識するなり、何らかの対応が必要かなと思った。

(事務局) 放送を流すことに関しては緊急割込放送など良いシステムを導入しているが、放送を受ける側については行政や地域の事業所の方々に協力していただきながら、地域全体での防災体制として進めていく必要がある。

(委員) 前回の話にあった今日は何の日の福知山版カレンダーについて、探してみると何月何日という日付まで入っている資料がなかなか無い。

(事務局) 現在審議委員の皆さんに資料を頂いて制作しているところだが、まだ365日のうちの4分の1ぐらいしか集まっておらず、時間をかけながらじっくりやっていかなければならないようだ。毎日というのが難しければ月初めにまとめて紹介という形になるかもしれない。古い年代についてはまとまったものがあるが、近年のものについてはなかなかまとまったものが無く難しい。

(委員) 市役所でも何十年誌等を出すために新しいデータも作っているのではないか。

(委員) 地域コミュニティに関わることで具体的に何ができるかというところについて、先日目にした資料によると、独り暮らしの高齢者は1日のうち平均20時間30分ほどは誰とも出会わずに一人で過ごしているというデータがあり、かなり多い時間であるが、その間、何をして過ごしているかというところテレビが圧倒的に多いようだ。テレビからラジオへの前向きな切り替えを考えた場合、近年は高齢者も含め人が群れるということをしなくなってきており、コミュニティの再生といった大きなテーマでラジオがコミュニティをどう繋ぐことができるのか、高齢化社会の良いところを捉えて高齢者に特化した番組を作っても面白いのではないか。コンテンツは非常に難しいと思うが、ターゲットがいることははっきりしている。

(事務局) テレビについてはやはり視覚的に訴えることができる部分の強みがある。ラジオについても将来的には視覚的なものを含めて考えていくことになると思う。現段階のラジオ放送においては高齢者に特化したコンテンツも検討していきたい。しかし、高齢者の方で電波の届かない地域の場合、パソコンを使ってラジオを聞いてくれといっても難しい部分があり、誰でも簡単に聴ける仕組みを提案していきたいと思っている。

3) 次回番組審議会の開催日時について

大槻委員長の議事進行のもと、次回番組審議会の開催日時について協議した結果、平成22年3月30日(火)に決定した。

4) その他

代表取締役社長松井喜久夫より、今後の放送における展開について説明が行われた。大槻委員長が閉会にあたっての挨拶を行い、第12回番組審議会を閉会した。

7. 審議機関の答申または改善意見に対してとった措置

特になし

8. 審議機関の答申または意見の概要の公表

事務所に備置き	平成22年	2月	1日
ホームページに掲載	平成22年	2月	3日

9. その他

特になし